

研究発表

『秘密のないスフィンクス』に託されたこと

—ロセッティの美女達との隙間で—

加藤 千晶

(明治学院大学講師)

「秘密のないスフィンクス：エッチング」(『アーサー・サヴィル卿の犯罪とその他の物語』収録、1891年)は、出版当初よりあまり高い評価を得ていないが、ワイルド自身が「芸術家としての批評家」で、エッチング作者は原画の真の性質を新しい材料によって引き出す絵の批評家であると述べたように、長編小説ほどの重厚さを持たなくとも、彼の本質を鋭く簡潔に、新しい調子で浮かび上がらせたものであることが、副題によって暗示されている。本発表では、この作品に登場する謎めいた未亡人レディ・アルロイに作者が託したメッセージを、D. G. ロセッティが描いた美女達との関連を通して探った。

一人称の語り手に旧友ジェラルドが明かす、彼が夢中になったレディ・アルロイの姿の、細身長身、ぼんやりした大きな目とほどけた髪、無口で近寄りたいたい神秘的な空気といった特徴は、ロセッティの描いた女性達、とりわけ、威厳と優美さのあいだの慎み深さをもつエリザベス・シダルや、深い瞳の奥に暗示を秘めたジェーン・パーデン(ウィリアム・マイケル・ロセッティ編『ダンテ・ゲイブリエル・ロセッティ：家族の書簡』参照)がまさに備えていた特質である。ワイルド自身も、ロセッティらラファエル前派の芸術家達が描いた女性の姿が当時現実世界にも出没したことを、人生が芸術を模倣するという彼の逆説の例証として「嘘の衰退」で挙げ、このような型の女性への関心を表していた。

ところでこの作品において、謎めいた女レディ・アルロイは、真実を知ろうと迫るジェラルドと訣別した後、風邪をこじらせて死に、真相を追求しても謎を発見できないジェラルドは、彼女はただ秘密めいた芝居を楽しんでいたのだと語り手に諭され、怪訝そうな表情を浮かべて話は終わるのだが、劇的なクライマックスの後のアルロイの死は妙にあっけなく唐突で、オイディプスに謎を解かれて岩から身を投げて死ぬスフィンクスの話を踏襲してはいるが、減じてゆくスフィンクスがもつ悲劇性に欠ける。

簡潔かつ客観的に報告され、生々しい現実感のないアルロイの死と、状況は似ているが対照的な例として『ドリアン・グレイの肖像』のシビル・ヴェインの死がある。女優というヴェールをぬいで正体を明かしたために、ドリアンの愛を失い減じたシビルの死を告げる新聞記事には、死体検視やシビルの母の興奮といった現実が羅列され、これを読むドリ

アンは醜悪さと現実とを同義のものとして語る。理想を現実化することにより神秘を奪うことは芸術家の真の悲劇だ（「芸術家としての批評家」という説通りの筋の展開だが、一方アルロイは、求婚という現実的手段をとるジェラルドを拒否することで、現実には墮ちる悲劇を免れる。同じ本に収められた「アーサー・サヴィル卿」や「カンターヴィルの幽霊」と同様、ヒロインとしての自分の役割をただ忠実に果たしたアルロイの、現実味乏しい戯画化された死は、読者の嘆きを期待してはいない。

仮面のための仮面をつけるという「遊戯」に「引き入れられ、私という「主体意識」を失った（渡辺護『芸術学』）アルロイは、人格のある生身の彼女を掴もうとするジェラルドをかかわして消え、悲劇を免れた芸術作品の模造物だった。ワイルドの作品の「戯れは悲劇を覆う外套」だとホルブルック・ジャクソンは述べた（『1890年代』）が、遊戯性を帯びた仮面は仮面の下から噴き出す現実、つまり悲劇に呑み込まれないための防御策でもあるのだ。

ところで、ロセッティの作品（『生の家』のソネット「真の女性」と「肖像」を例に挙げた）において女性は、その奥の神秘を啓示する目に見える形象として賛美の対象となった。内面は外観を通してのみ探ることができるという立場をとりながら、彼は永遠に解けないと承知している謎を、永遠に半透明の表面である女性の姿を通して真剣に追いつけた。

「世界の真の神秘は……目に見えるものだ」（『ドリアン・グレイの肖像』）という言葉で表面に対する注意を喚起したワイルドは、芸術と現実の間には「美しいスタイルという突き通せない壁」があると「嘘の衰退」でヴィヴィアンに語らせ、芸術の独立性によって強められた仮面の堅固さを強調した。作中人物によって語られるこの表面の美学自体がワイルドの仮面なのだろうが、この美学を正面から扱うのではなく軽く示唆するために、レディ・アルロイは、神秘ゆえに追求されるロセッティの美女達の仮面の模造品として作品に登場し、虚偽であっても魅力的な謎を楽しむ大切さを極端な形で我々に示している。

芸術を「浅はかな秘密しか持たない……スフィンクスとしては扱わない」、「芸術家としての批評家」ワイルドは、短絡的な謎解きのような解釈を許す芸術作品や、そういったものを好む人々への批判もこめて、謎の追求ではなく表面に、形式の美しさに読者の関心をあえて向けさせることに力点を置いた。消えることで美しい謎を永遠に凍結させたアルロイを捕まえようとはしないで欲しいというのが、現実に悲劇があることを知りながらも戯れの仮面を大事にし続けたワイルドの、このエッチングにこめたメッセージなのだ。